

▼今回のポイント

- ☑ 交通事業統括本部 勤労課 加來和樹係長
- ☑ 女性ドライバーが輝く環境を作る「女性会議」とは
- ☑ 女性会議を通して得られた改善策
- ☑ 加來係長からメッセージ

【女性ドライバーが輝く環境を作る「女性会議」とは】

今回の番組では、交通事業統括本部、勤労課の加來和樹係長に「女性タクシードライバーがより輝ける体制作り」を目的に行う「女性会議」について伺いました。

元々タクシー業界は、第一交通産業グループを含めて男性色が強い業界の1つです。時代の流れの中、高齢化に伴った人手不足が深刻化したこともあり、近年はより女性の雇用が積極的に進められてきました。

第一交通産業では、平成26年の女性ドライバー応援企業の認定取得をきっかけに、女性ドライバーが多く入社しています。一方で、女性の働く環境においては、女性専用の更衣室やトイレなどの施設が整っていないという課題も出てきました。

そうした中で、女性ドライバーに改善点を出してもらうために開催したのが、女性会議です。女性がより働きやすい職場環境になるためには？女性ドライバーの雇用を加速するためには？といった、採用募集案も既存の女性ドライバーから募ったといいます。

【女性会議を通して得られた改善策】

2023年12月に開催された第3回北九州地区・女性会議。

参加者は、北九州エリアで働く第一交通所属の女性ドライバー100名の中から、各営業所の代表19名が参加しました。その他にも、来賓として、労働局、運輸支局、福岡県、北九州市など社外の参列者も顔を並べます。

加來係長は「タクシー業界に昔から根付くネガティブイメージを刷新するためにも、ぜひ女性会議にドライバーさんたちに出席してもらい、少しでもイメージが変われば嬉しい」と語ります。

こうした、女性会議を経て改善した事例を伺いました。

1つ目に、採用活動のヒントが得られたこと。加來係長が最も印象的だったのは、ドライバーが口々に語るやりがいがいたといいます。「お客様からありがとうと言ってもらえる」「地域貢献できている」という生の声を求職者に発信していきたいと、採用方針のレベルアップになったと語ります。

2つ目に、防犯面の改善案も多く挙げられています。例えば、大きな防犯ボードの導入や、催涙スプレーの携帯もこの女性会議をきっかけに取り組みされたことです。

さらに、3つ目には車両の変化もありました。近年は後ろがワゴン型のジャパンタクシーが増えているものの、かつては、コンフォートやセダンタイプが主流のタクシー業

界。女性ドライバーから乗り慣れないという声もあり、女性も運転しやすい軽自動車に近いルーミーやタンクが導入され、**女性専用車両**として使用が推奨されているといいます。

【加來係長からのメッセージ】

加來係長の今後について伺うと「もちろん男性にも引き続き活躍してほしいです。加えて、**女性ドライバーの比率20%（2023年12月時点で10.7%）を実現したい**」と自身の担う目標を語ります。また、「**若年層にもタクシードライバーという職種に興味を持ってもらいたい**」と**業界全体の底上げ**をしたいというビジョンも語ってくれました。

最後に、グループ全体へメッセージをいただきました。加來係長「全国各地でこの女性会議には、女性ドライバーがメインで集まって開催しており、どなたもイキイキと色々な意見やご要望、新しい採用案も出していただいています。ぜひグループ社員の皆さんが、**女性ドライバーのタクシーに乗った際には、一声お声掛けいただけるとありがたいです。地域交通を守るためにも、女性ドライバーの皆さんの力を今後もお借りたいです**」